

# 会報 安曇野教育

## 第49号

発行所 安曇野市教育会  
発行人 藤松 伸二郎  
編集 会報委員会

発行日 平成27年12月1日  
題字 川田 殖

テレビ番組「仮装大賞」の司会をしていられるコメディアン萩本欽一さん(通称欽ちゃん)は現在七十四歳、なんと今春駒沢大学の仏教学部の人入試に合格しました。その様子がテレビで放映されていて興味深く見させてもらいました。どうして、大学に行くようになったかという問いに「僕は仏教学部を『仏様の教え』と読んだからね。いい言葉がたくさんあるに違いない、その言葉に会いに大学に行こうと思った。」と答えていました。

駒沢大学の社会人入試の教科は英語・面接・小論文の三教科で、一番手強かったのは英語だったそうです。社会人卒の入試といっても大学入試レベルの英語力が求められます。大手大学予備校の講師を家庭教師として招き、毎日脚本の仕事以外は英語の受験勉強に充てていたそうです。欽ちゃんはずり予備校のテキストを切り

### 「欽ちゃん」に続け

常任委員長 大島 春彦



貼りに自分に必要なことだけのテキストを作り文法を覚えました。また三千語の受験英単語は、私たちが歴史の年号を覚えるように、英語の発音を言葉にして記憶していったそうです。大学生活はという問いに「明日会える人がいるということが、この年になると一番辛せだと思ふの。」と言っている姿が印象的でした。

番組を見終わって、自分は欽ちゃんのように学ぶ意欲を持っているだろうかと自問しました。若い時にあつた気持ちをいつしか忘れ、忙しい、会議がある等を理由に、去年と同じことを繰り返す自分に反省させられました。欽ちゃんは「遠回りしようよ。最初は失敗だらけ、でもぶつかるよ、本物の出会いに。」と言っています。

私達教員も欽ちゃんに負けないよう、失敗を恐れず授業や学校行事で新しい取り組みをし、一人でも多くの子ども達が楽しいと思える学校を作っていきます。

## 安曇野の子どもを語る会



2015/10/17

十月十七日(土)に、南安曇教育文化会館で「安曇野の子どもを語る会」が開かれた。はじめに、安曇野市教育委員会教育委員長の唐木博夫先生にご挨拶をいただいた後、青木泰治教育会常任委員長が趣旨説明を行った。討議の柱は、「安曇野で育つ児童・生徒の素晴らしさや課題を見つめ、学校・家庭・地域の教育力をどう高めていったらよいか。『豊かな自然体験や社会体験を通して、心豊かでたくましい安曇野の子どもたちを育てていくために』」である。子どもたちの育ちの環境の変化、子どもたちの変化、安曇野市の子どもたちへのアンケート結果から、「豊かな自然体験や社会体験、実際の生の体験・経験が少なくなっているのではないか。」「実体験に基づいた感動・感性が少なくなっているのではないか。」「実感を伴った生きる力が育っているか。」「という問題意識が浮き彫りになった。これを受けて分散会では、「今の子どもたちの育ちについて、課題や良さ」「協力できることや連携できること」「学校や家庭、地域の協力体制」について話し合っていくことが確認された。この後、五つの分散会に分かれて、話し合いが行われた。

最後の全体会では、藤松伸二郎教育会会長が、「教育の成立は人間と人間との心のふれ合いにある」という齊藤金司先生の言葉を示し、「それぞれの分散会で話し合われたことは、どれもそのことにつながっている。それを今後は少しでも実践していきますよう。」と会をまとめた。

# 各分散会の様子

## 【第一分散会】

子どもたちの実態として、クラブ活動等での関わりはあっても人間関係は狭くなっていることや、忙しくて自然体験や生活体験ができていないこと、家庭でも危ないからと遠ざけてしまうなどの現状が話題になった。

それぞれでできることや連携できることを話し合う中で、学校では、地域を知る学習や地域に根ざした学習を位置づけている例がいくつか出された。中学校や高校では、グループ学習で自分の考えをもち発信することを重ね、自立して考える子を育てていこうとしている試みも話された。

家庭では、子どもがやりたいときには見守る、任せるなどの例が出され、地域の方からは、もつと地域の力を活用してほしいというお声をいただいた。よいと思うことをそれぞれの立場で自信をもって発信することが、子どもたちのよりよい育ちを実現することにつながるだろうと、思いを強くした。

## 【第二分散会】

自分が子どもの頃とはだいぶ変わってきているが、自然の中で子どもたちが目を輝かせている様子は一緒だ。今は稲作も機械化が進

み、実際に子どもたちが手伝える場面もそうはないのが現状。無理にやらせても、逆にいやなものという気持ちを持たせてしまうこともある。しかし、地域の方のご厚意による米作りやリンゴの摘果体験、生徒会資金とすることを目的としたトマトの収穫活動などが行われている。このような経験はと

てもありがたいとの話があった。また、学校のきまりについて考えさせられる意見も出された。自分で考えてどこかに行く、友達と目的をもって遠くまで出かける、そんな経験から大きな自信をつけ、自分も大人になった。きまりには子どもを守る意味もあるが、きまりがなぜあるのか、自分がどういう行動をとるべきか、きちんと考えられる人に育ってほしいと語られた。そして、素晴らしい自然という財産をもつ安曇野の子どもたちにその良さを大人が伝えていきたいという思いが出された。

## 【第三分散会】

まず、それぞれの立場から見ると子ども達の実態や地域の様子について情報交換を行った。核家族や共働き家庭の増加に伴い、子ども達の人や地域との関わりは減り、一人遊びの時間が増えている。そ

んな中、地域の方々の手によって子ども達が思いきり遊ぶことのできる場(わいわいランド等)が作られていることへのありがたさが多く語られた。

一方で、木登りできる木が限定されていたり、ブランコの乗り方が決まっていたりと、多くの自然体験を望みながらも、安全面への配慮から禁止事項が多く、子ども達が窮屈なのではないかという意見も出された。他にも保護者間でのトラブルを恐れるあまり子どもを叱れないこと、親世代の知識や経験不足から体験の楽しさをうまく伝えられないこと等、術がないから禁止を作り、決められた範囲の中で子どもたちを育てている、大人のコミュニティの希薄さが問題となった。いくら良い子どもを育てても、良い地域を作らなければ子どもは安曇野から出ていってしまうと心配も話された。

これらの現状を打破する方法として、私たち自身の「交流」の必要性が挙げられた。多くの考え方や関係づくりの方法に触れ、人や地域とのつながりを深める。子どもに語る経験を重ねる。そして、子どもを育てる私たち大人自身も、心豊かでたくましくあろうとする。そこそが大切であると、多くの具体例と共に語られた。

## 【第四分散会】

子ども達の自然体験が乏しくなっているという話について話し合われた。子どもの自然への興味関心は昔も今も変わらないことを示す事例が出され、社会の変化に伴い、大人の果たす役割がますます重要になってきているのではないかとということが話題となった。

「親世代が、自然との関わり方や遊び方を知らなくなってきたり、子どもが興味を持っていても、『危険』『きたない』等の理由から大人が体験に必要以上の制限をかけてしまう。これらが主な問題点として挙げられた。そして、保護者、地域、学校が連携を深め、協力して安全管理に万全を期し、様々な自然体験の場を設定していく大切さが、具体的な事例を通して、熱心に協議された。あわせて、家や地域の行事において、子どもに役割と責任を持たせ、見守ることの大切さが示唆された。

## 【第五分散会】

安曇野市は自然が豊かだが、自然と十分関わっていないのではなにかという問題が提起された。それに対して、昔はそれぞれの家庭でも農業体験等を通して自然と関わる機会があったが今はなかなかないことや、自分の子ども達の頃は外で暗くなるまで遊んでい

たが、今はそんなことはもつてのほかで安全が心配される、など昔と今との違いが出された。



一方、今でも明北の地域では子どもも地域の行事によく参加している、自然とふれ合う機会も多い、という意見が出された。それは、大人が子どもにも行事に参加するよう勧められて、地域の方も協力しているから。明北地域に限らず、大人が環境を作ってあげると、子どもも自然と関わることができるようではないか、と提案があった。いずれにしても大人の意識が大切で、大人が「きつと子どもがこういうよさを感じてくれるだろうな」というものをもって、価値を子どもたちにもふれさせることができる。大人が目的や目標をもって、ずくを出したい、という意見が共感を集めた。



安曇野往来

統合後の学校づくり

私が昨年度からお世話になって... 中央道の松川インターチェンジを... インターチェンジから県道を東に... 下っていくと、周りに広がっているのは、リンゴやナシ、モモなどの果樹園です。松川町は、果樹栽培を始めて百年目を迎えた、くだもの町なのです。学校でも主に三年生が果樹農家の方のお話を聞きしたり、簡単なリンゴ栽培の体験活動をしたりしています。さて、本校から更に東に行き、

天竜川を渡って山道をのぼると、旧松川東小学校があります。ここには、この三月まで九名の子どもたちが学んでいましたが、地域の方々に惜しまれつつ閉校になり、松川中央小学校と統合になりました。

この統合にあたって、私たちは両校の良さを生かして新しい松川中央小学校としてスタートすることにしました。旧東小学校からやってきた子どもたちは転入生ではなく、一四〇年をこえる東小の歴史と地域の期待を背負って、中央小の子どもたちと一緒に新しい歩みを始めました。

ある程度の規模の中で互いに切磋琢磨しながら成長できる中央小の良さ、地域に支えられ地域と共に歩んできた東小の良さ、それぞれの良さを生かしながら、新しい学校づくりの柱として「①集団の中で学べる環境づくり」「②地域に学ぶ学校」を掲げ、更にそれらの基盤として「③安心してできる集団づくり」を据えて統合一年目を出発しました。

旧東小の校舎や周囲の自然環境を活用しての学習など、新しい活動も取り入れながら、新たな歩みを進めているところですが、

王滝に自信と誇りをもって生きる子ども

十月三日、王滝中学校第四十五回翔岳祭が行われた。生徒数は十三名。しかし、一人一人が様々な場面で活躍し、すばらしい翔岳祭となった。翔岳祭の最後を飾るのは、小学生との合同音楽会である。音楽会の最後は小中学生合同による「ビリーブ」であった。この曲を聞いた多くの人は、一年前のことを思い出していたと思う。

平成二十六年九月二十七日、翔岳祭当日。まさかの御嶽山の噴火。はじめは、ちよつとした噴火であろうと軽く考えていたが、時間が経つにつれて徐々にその現状が明らかになり、戦後最悪の火山災害になった。翌日から校庭に自衛隊の車両が駐車し、村内は緊急車両や報道関係の車が行き来し、学校の中にマスコミ関係者がたくさん入るようになった。まさしく非常事態であった。その後、子どもたちは王滝村を少しでも元気にしたいという気持ちから、様々なことに挑戦していった。中学生は王滝を元気にするための方策を考えた。そして、その考えをもとに村内の観光業の方々と意見を交わす機会を設けた。その話し合いをもとに、提言書という形にして村長さんにお渡しした。その活動が今年度に入り、「王滝未来プロジェクト」という形で継続している。夏休みには東京駅で天然水を配布したり、特産品の販売を行ったりして王滝村をPRする活動を行ってきた。小学生は「王滝再発見」というテーマで、村内をまわり王滝のよさやすばらしさを実感し、王滝のよさを発信する活動を行うおうとしている。

御嶽山の噴火で王滝村は大きな痛手を受けた。しかし、それは子どもたちにとつて王滝村を考え見つめ直す機会ともなった。子どもたちの村を思う気持ちと笑顔が村を元気づけている。これからも、王滝に自信と誇りをもって生きる子どもをめざし全職員で子どもたちの成長を支えていきたい。

多様な学校訪問から

教育事務所でお世話になって二年目となりました。昨年度は北信、本年度は東信で、理科の指導主事として、年間数十校の学校訪問をさせて頂いています。学校訪問は、全校の授業研究会を伴うものから、教科会や研究会のみの半日訪問や、一人一公開での一時間の授業訪問+懇談といったものもあります。また、小学校理科実験観察出前講座、理科室環境整備、教材研究・実技講習会、初任者・講師の先生方との懇談、特別支援担当主事とのコラボ訪問など多様なニーズにお応えできるよう努めさせて頂いています。ま

た、中間教室にも出かけさせて頂き、実験教室や運動を通して、楽しい時間づくりに協力させて頂いています。

これらの学校訪問を通して感じていることは、本当に理科っておもしろいな、楽しいなということです。理科は「どんな環境でも答えのない問題に最善策を導くことができる課題探究能力を習得させる」教科であり、自ら学び、考え、行動する力などの生きる力を育てるために、果たす役割が大きいと感じています。そのために、少しでも先生方の困り感に寄り添い、子どもたちの笑顔のために努力していきたいと考えています。

油井さんが宇宙に飛び立ちました。川上村に壮大に広がるレタス畑、野辺山の電波望遠鏡、噴煙を上げる浅間山、大河ドラマ真田丸のぼり旗を見ながら、学校訪問という一つ一つの点が、長野県全体の教育という面につながることをお願い、自分に行うことができることを願っています。



### ぽかぽか下伊那

昨年度より勤務している豊丘村立豊丘南小学校は、長野県の南部、飯田市の北東に位置し、天竜川が形成した日本一とうたわれる河岸段丘の中心に位置しています。ここ豊丘村は、河岸段丘の恩恵により、水田やりんご、なし、柿などの果樹の生産が盛んで、秋には多くの味覚を楽しむことができます。なかでも松たけが有名で、学校給食では、年に一度の「松たけ給食」が私たちを楽しませてくれます。

豊丘南小学校の児童たちは、大変明るく元気がよく、休み時間に

は、校庭や体育館でたくさん遊びこんでいます。昨年の様子から、これから迎える寒い季節でも、外で思いきり遊ぶ、身も心も元気な児童が多いことを感じ、私も負けていけないと思っています。また、児童会では、「笑顔いっぱい みんな仲よし 南小」のスローガンのもと、各委員会、「なかよしの木々友達にこんな嬉しいことしてもらったよ」の作成や、「あいさつじゃんけん」毎朝たくさんさんの友達とあいさつじゃんけんをしよう」など、笑顔があふれる南小になるよう、目標に向かって活動に取り組んでいます。十月現在は、運動会も無事に終わり、児童たちも楽しみにしている児童会祭り「丘の子まつり」に向けて、準備を進めています。

安曇野を離れ今思うこと、それは「土地は違えど、人の温かみは同じ」ということです。安曇野でも、ご縁によって多くの方の「温かみ」に支えていただきましたが、ここ下伊那でも、「人の温かみ」に勇気づけられ、安心して日々を過ごしています。今後も、土地も人も言葉もあたたかい、「豊丘村」のよさをたくさん吸収していきたいと感じております。

## 各種委員会からの報告

### 【教育課題(体力向上検討)委員会】

本委員会は、市体力向上推進委員会を兼ね、①健康や体力・運動能力の現状理解と課題や原因の検討②健康・体力・運動能力の向上や生活改善のための具体的な方法の検討と提言③幼保小中が連携して取り組む方策の検討と提言を目的として活動しました。

よななことを考えていけばよいのか等について考えあっています。日常生活の中において人権意識を高めるための工夫などについても、話題として話し合ってきました。

まとめや公表は、『調査研究のあしあと』及び三月の『広報あづみの』等を予定しています。

### 【図書館教育委員会】

小中学校における教科体育(保体)、全校運動、児童会や生徒会による活動、部活動、学校保健委員会等の具体的な取組と共に、幼稚園・保育園の取組も紹介し、より一層安曇野市の子どものための体力向上を図っていきたくと思います。

本年度は、図書館を有効利用するための「図書館利用の年間計画」の立案を中心に、小・中学校それぞれの立場からの意見交換を行っています。図書館大会の際に作成した年間計画をたたき台にし、より実用的なものにするにはどのようにしたらよいかを検討し、まとめていく予定です。

### 【人権教育委員会】

本年度は、各学校での人権教育の取り組みについての情報交換を中心に、実践記録を収集し、各校へ配布する実践記録集への追加資料を作成しています。

更に、各校の読書旬間の実践例、より効率的に調べ学習をするための工夫点、読み聞かせの実践例等を持ちより、情報交換をしました。引き続き、司書の先生方と連携をとりながら、日々の教科指導や読書指導に生かすことができるような取り組みをしていきたいと思っています。

また、各校で行われる人権教育強調月間にもどのような取り組みをしたのか、課題となったこととは何か、小学校と中学校のつながりを考えた実践としてどの

### 【生涯学習委員会】

本年度は、主に次の二点に重点

を置き活動をすすめてきました。  
 ①生涯学習に関しては、「各校の生涯学習活動状況」及び委員の所属学校における「社会人講師の活用状況」事例の二つの調査を行いましたとまとめました。「社会人講師一覧」については、本年度は、市の方で行っているものと重複するのご意見を受け調査は行いませんでした。社会人講師については、市の一覧を活用していただけたらと思います。

②親子陶芸教室については、例年好評であり本年度も実施しました。十月二十四日、昨年度同様五十七名の参加者で徳高陶芸会館にて好評のうちに終えることができました。

**【環境教育委員会】**

今年度は、「環境への配慮行動の促進と環境問題に対する理解を深めることを目指す環境教育の在り方」をテーマに研究してきています。

環境問題に対する理解を深める活動として、「安曇野環境フェア」において明北小学校六年生と明科中学校の総合的な学習の時間で学んできたことを発表しました。小学校の発表では、四年生の時から学習してきた「松枯れの問題」についてクラス全員がステージに立ち自分たちの考えを呼びかけました。中学校は自然観察講座で学習した安曇野の豊かな自然について、

環境保全の大切さを交えながら発表しました。学校で学習したことを広く社会に発信していくことの重要性を感じました。

今後、十一月には授業参観を行います。また、各校で環境教育に関する授業の実践や外部講師の招へいについての状況調査をする予定です。それらを通して、先生方が環境教育を行うときのヒントになるような、まとめをしていきたいと思っています。

**【社会科資料集編集委員会】**

今年度の安曇野巡検は、初めて安曇野に赴任した先生方に「拾カ堰」について知っていただくこうと考え、候補地を選定しました。安曇野の地形的外観をとらえるため、長峰山からの俯瞰から始めました。その後、「頭首工」「掘削モニュメント」「自転車広場」「大曲」「孫一郎生家」「孫一郎・輪兵衛墓所」「中嶋輪兵衛生家」と四年生の学習「郷土をひらいた人々」に生かせる内容としました。孫一郎と輪兵衛の生家を訪れたことで、当時の人々の願いに触れることができました。

資料集は、市に協力をいただき写真や基礎データの更新に加え、防災や水道など現在の姿を新たに加え、二十八年四月発刊を目指して原稿づくりを進めています。

**【人物読み物委員会】**

本年度も「安曇野の偉人(人物)」について調査研究し、児童生徒への教材化を視野に入れながらその業績をまとめる」ということに取り組んでいます。

委員会では、地域歴史家である中島博昭先生をお招きし、各委員がまとめている人物一人一人についてのご指導をいただきました。「読む人が、人物の業績、エピソードに一目で引きつけられるように、写真なども入れながらシンプルにまとめるとよい。」とご指導いただきました。

教材化の一助として活用できるよう、またその人物について興味関心を持ってもらえるようまとめたいと思います。

**【キャリア教育委員会】**

本委員会では、平成二十七年版「進路学習資料集」の編集頒布とキャリア教育の調査・研究の二点を中心に活動しています。

「進路学習資料集」は昨年度版と比べて大きな改訂はありませんが、最新の各高校の情報や先輩の言葉が掲載されています。また、進路指導の学習に役立つテキストも付いています。各高校等のご協力に感謝し、多くの中学校で進路指導に役立てていただければと思います。

また、本年度は、委員一人一人がキャリア教育の実践(中学校は

数学と理科・小学校は国語と生活科)を行い、レポートにまとめました。そして互いに発表し合い、日常的なキャリア教育のあり方について考えていきました。

**【木村素衛委員会】**

本年度素衛委員会では日記No.三十八・三十九(昭和八年)の判読作業を行っています。先生が広島から京都へ戻り、京都帝国大学文学部助教授に任ぜられる時期に当たります。それまで哲学一筋に研究を深めてきた先生が、京都帝国大学に戻るにあたり、「教育学」という分野を教えなくてはならないと苦悩されたことが日記に書かれています。

五月の安曇野市教育会総集会では素衛先生の四女である張さつきさんのご講演があり、素衛先生と信州とのつながりを分かりやすく、また温かな口調で話していただきました。会員の先生方が素衛先生の人柄と功績を知るよい機会となったかと思えます。

**【郷土文化財センター 運営委員会】**

本年度は、所蔵品の管理と紹介、郷土文化財センターの新パンフレットづくりを重点をおき活動してきています。

安曇野教育にゆかりのある人物の書籍や絵画等を保管・展示して

**東西南北**

『』の言葉から  
 私が子どもの頃は、近所の人が『縁側』に集まり『漬け物とお茶』で飽きることなく話して

んでいた。私はといえば、近所に変電所があり、みんなが集まって、『蹴り、チャンバラ、ビー玉、陣取り、メンコ』などで日が暮れるまで、遊んでいた。『ガキ大将』はとても恐かった。夕食では『一匹のサンマ』を三〜四等分し、一番大きいのを選ぶことでも喧嘩になった。『みそ玉』作りでは近所の人が寄り合っている中、大豆がニョロニョロと絞り出されてくるのを飽きることなく見ていた。稲刈りや田植えでは『田んぼで飲むお茶』が楽しみだった。あれから四十年ほどが過ぎ、『』の言葉は陰を潜め、『テレビゲーム』『インターネット』『スマホ』『ライン』といった言葉が生活の中に位置付いている。世界にまで人とのつながりが広がる一方、人との直接的なかわりは薄くなっている。今後、変化する世の中に対応しつつ、あらためて、『』の言葉のもつ重みをかみしめ、人と人との会話や情的なやりとり、そういった中で言葉を実感し、自分を育てていく営みを大切にしていきたいと思う。



います。本年度は新たに初版から現在までの「わたしたちの安曇野」「進路学習資料集」を展示しました。また、これらの所蔵品について調べたものをこの会報「安曇野教育」に毎号掲載して頂いています。さらに、所蔵品の変更によるパンフレットの作成も行っています。その他として、センター開放日を設け、行事に併せて特設展示を行い、多くの会員に見学してもらえるようにしてきました。

**【展覧会運営委員会】**

本委員会では、市内小中学生の学習の成果を発表する場として、次の活動を行ってきました。

○科学展・書道展・図工美術展  
○各校に作品を募集するとともに多くの先生方に審査員をお願いし、市内巡回展の作品審査を行いました。

**○市内巡回展**

科学展：十月～十二月  
書道展：十月～十二月  
図工美術展：十一月～一月

それぞれ入選作品が各学校を巡回します。学習の成果を確かめ合っていただけだと思います。

**【市内児童生徒ものづくり展】**

○教育文化会館大会議室にて十月三十一日から十一月五日までの間開催しました。

今年は六日間の展示となりましたが、各校児童生徒より寄せられた立体作品と、図工美術展の地方

入選絵画作品を展示し、児童生徒の皆さん、保護者の皆様を中心にご覧いただきました。  
(穂高西中 石井 良治)

**【会誌委員会】**

本委員会は、二月下旬に会誌「安曇野教育」第十号の発刊を計画しています。現在、各校より推薦していただいた先生方が原稿を執筆中です。

本号の巻頭座談会では、「生きる力を育む 学校・家庭・地域の連携・協力」というテーマで、学校地域コーディネーターの方や生徒の体験学習を受け入れて下さっている企業や農家の方々等に討議していただく予定です。郷土の博物館シリーズは「安曇野ちひろ美術館」です。

**【会報委員会】**

例年通り五回の会報の発行を計画し、これまでに四回発行しました。また、定時総会で決定したことを速報という形で発行しました。総集会や安曇野の子どもを語る会など、教育会の活動の様子とともに、会員が互いの活動内容を知る機会になればと考え、各種委

員会や同好会の活動についても紹介してきました。郷土文化財センター運営委員会にご協力いただいている「郷土の文化財」や校長先生方に執筆していただいている「東西南北」も、引き続き連載しています。

今後も教育会の機関紙としての使命を果たすため、会員の皆さんに情報を提供していきたいと思えます。これまで執筆にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

**【情報委員会】**

情報委員会では、安曇野市教育会ウェブページの更新作業を中心に活動してきました。

特に会報の掲載では、個人情報に配慮して修正し、できる限り迅速に情報提供できるように心掛けています。

また、今年度は特に「長野県視覚・放送・情報教育研究大会安曇野市大会」の広報ページを特設し、大会のサポート活動もしてきました。

安曇野市教育会の会員はもちろん、より多くの方々にとって役立つ内容になるように一層充実したウェブページ制作を目指したいと考えています。

**郷土の文化財 ⑳**

**信濃教育会南安曇部会「地質調査旅行要目」**

郷土文化財センターには、大正六・七年度の「地質調査旅行記」、大正八年度の「動植物採取旅行報告」が残されています。当時の安曇野の先生方が地域の山の調査を目的に登山された記録です。また、大正期に北アルプスを撮影した貴重な写真も一緒に展示されています。

資料のひとつ「大正七年八月 南安曇郡常念岳槍ヶ岳燕岳地方 地質調査旅行要目」に目を通してみると、風穴の由来について調べた部分がありました。風穴の由来や構造、温度などに着目し、興味を持って調査していったことがわかります。さらに見ていくと、風穴の昔の利用法として、食物の冷蔵に使われていたという記述があり、興味深かったです。その他の資料にも、岩石の成分や地層のつながりなど細かく調査されています。その資料から安曇野の先生方の研究に対する情熱を感じました。

**(郷土文化財センター 運営委員会)**



**編集後記**

「安曇野往来」では、安曇野を故郷とされる先生方から原稿を寄せいただきました。それぞれの地で子ども達や地域の方々と共に

生き生きと活躍されている様子が伝わってきました。「安曇野の子どもを語る会」や各種委員会の取り組みについてもお伝えすることができました。ご協力ありがとうございました。